

これまでの経緯等

1 経緯

- 固定価格買取制度 (FIT 制度) の開始以降に急速に普及した太陽光発電設備が、2030 年代半ば以降から順次廃棄されることが見込まれることから、平成 30 年 8 月、「東京都使用済太陽光発電設備リサイクル検討会」を立ち上げ、太陽光発電設備の 3R 方策について検討開始
- 令和元年 12 月までに検討会を計 4 回開催し、令和 2 年 3 月に第 5 回目の開催を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期とし、以来、休止状態

2 検討状況

- 有害物質が含まれる太陽光パネルについては、国や NEDO でリサイクルに向けた技術開発が行われていたが、検討会発足当初、リサイクルルートは未確立
- そのため、まずは、太陽光パネルの適正処理を担保しつつ、3R を実現する方法を技術面から検討

【テーマ】

- i) 設備に含まれる有用金属やガラスの効果的なリサイクル手法
- ii) 設備に含まれる有害物質の適切な管理に向けた分析方法
- iii) 撤去現場から処理施設まで、効率的にリサイクルルートに流す仕組み
- iv) 使用済設備又はその部品のリデュース・リユース促進施策

【検討状況】 ※別紙参照

- ・第 1 回目は、太陽光発電の都内への導入実績、処理の実態、国の動きなどの現状を共有するとともに、検討会の議論の方向性について議論
- ・第 2～4 回目で、解体業界、処理業者、ハウスメーカーなどに対して各主体の取組等についてヒアリングを実施するとともに、コンサルタントから国際機関における太陽光モジュールに係るリスク評価等についての議論の説明
- ・また、都で令和元年度に実施した太陽光発電設備 3R 推進に係る基礎調査及び早稲田大学提案の太陽光パネル高度循環利用に向けた実証事業の内容を共有

3 太陽光発電設備に係る動向

(1) 国の動向

- ・事業用太陽光発電設備 (10kW 以上) について、事業計画策定ガイドライン (太陽光発電) において、平成 30 年 4 月から廃棄等費用の積立が遵守事項となり、同年 7 月から再エネ特措法施行規則に基づき積立の進捗報告を義務化
- ・令和 2 年 6 月、再エネ特措法が改正され、廃棄等費用の積立制度を創設

- ・太陽電池モジュールの適切なリユースを促進するため、令和3年5月、環境省が「太陽電池モジュールの適正なリユース促進ガイドライン」を策定

(2) 都の動向

- ・「ゼロエミッション東京」の実現に向けて、令和3年10月、東京都環境審議会に対して、住宅等の一定の中小新築建築物への太陽光発電設備設置の取組強化を含む「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例の改正」について諮問

東京都使用済太陽光設備リサイクル検討会の議事

■第1回検討会（平成30年8月6日）

- 東京都使用済太陽光発電設備リサイクル検討会の設置について
 - ・設置要綱の説明、座長の選出
- 都内における太陽光発電の現状
 - ・太陽光発電設備の都内の設置状況、将来排出量、廃棄物処理の現状等について説明
- リサイクル・適正処理の課題
 - ・太陽光発電設備のリサイクルに向けて、ルート確立の必要性を説明するとともに、当時挙がっていた課題等を説明

■第2回検討会（平成31年2月26日）

- 太陽光発電設備の撤去・処分の実態について
 - ・一般社団法人東京建物解体協会より、太陽光パネルの撤去から廃棄物処理までのプロセスにおける現状について説明、将来的な課題について提起
- リユース・リサイクルの取組について
 - ・株式会社エヌ・ピー・シーより、自社の太陽光パネルの検査業務、リユース業務、ホットナイフ技術を用いたパネル処理について説明

■第3回検討会（令和元年7月9日）

- 太陽電池モジュールの環境リスクについて
 - ・みずほ情報総研株式会社より、IEA（International Energy Agency）の太陽光発電技術に係る連携プログラムの取組について説明の後、当時議論していた環境影響・健康リスクの評価等について説明
- 太陽光パネル高度循環利用に向けた「東京モデル」について
 - ・所委員より、大学研究者提案制度に基づき実施している太陽光パネルの高度循環の仕組みづくりについて取組内容を説明

■第4回検討会（令和元年12月20日）

- ハウスメーカーの取組について
 - ・積水ハウス株式会社より、広域認定制度を活用した産業廃棄物の処理・リサイクルの仕組み及び太陽光パネルの処理に係る課題について説明
- 基礎調査の進捗状況について
 - ・令和元年度の太陽光発電設備3R推進基礎調査について、進捗状況を説明
- 今後の議論の方向性について
 - ・これまでの検討会での議論の中で、太陽光パネル処理における多岐に亘る課題が提起されたため、今後の議論の方向性について議論